



# 自動車時代の東海道五十三次

梁瀬自動車株式會社社長 梁瀬長太郎

我國に於ても最近自動車交通が著しく發達した結果鐵道の爲めに久しく吾人に忘却せられた傾ある東海道の舊五十三次は自動車旅行者に依りて復活せられつゝある有様である然しながら時代の推移は決して舊五十三次を其儘恢復せしむるものではない。

即ち人の歩行を基準として六七里の距離に於て人馬の旅宿に適したる利便の地に發達した各驛は新たなる自動車利用の旅行者に取りては餘りに距離が近く其數が多きに過ぎると思はれる從て

自動車交通に依る新五十三次は其數を減じて或は二十次となるか又は十五次となるかも知れぬ、併し或數の宿驛は屹度新たに漸次發達を見て現狀に於て鐵道の各驛が繁昌して居る如く自動車の停留に最も適したる都市が著しき進歩をなし新裝を整へて發達するに相違ないと思ふ。

之は自分の經驗であるが自動車で東海道を旅行する場合には速力の異なる爲め歩行や籠に依る時と相違あるは勿論であるが多少異りたる廣重の繪を思ひ出さずには居られない。

東海道許りでなく仲仙道も山陽道も其他の國道皆大同小異であるが、茲には最も繁昌なる東海道を例に取りたるものである。

自動車に依る旅行者の外に貨物自動車に依る貨物の遠距離輸送は、近時大に發達し其道路の如何にも不完全で凹凸多きにも拘らず、最近八王子、桐生、足利、名古屋、京都を連絡したる織物の輸送を計畫して居る者もあり、又現に實現しつつあるものでは、大阪乗合會社は其所有の百餘臺の貨物自動車を以て大津、京都、大阪、神戸、明石の荷物運搬の役目を勤めて居り、又名古屋の循環乗合會社は、名古屋、京都間に於て陶器の運搬を定期的に開始した如く、他に例を取れば大小最限なく多數の斯業を見るのである。

此時に於て諸國道が改修され自動車に適する様になれば、恐らくは人よりも、貨物輸送の方が先に發達を見る様になるであらう。

私の考へでは人の生活上に大關係を有つ交通の發達を促進する爲めには、長距離の國道に對しては一度にペープなどしたがらないで、第一着手として極めて簡易なる産業道路を造るが目下の急務

であると思ふ。右様にして産業を發達せしむれば、茲に資源を得て漸々堅牢なる道路を建設すること  
が出来るのであつて、決して一概に富裕な先進國を猿真似すべきでないと思ふ。

我帝國の如く廣袤の狭い國では、快速力を有する自動車交通が充分に發達すれば、現存鐵道の必要  
が大に減少せられ、現存鐵道中の或は三分の一、或は半分位は其必要を見なくなるかも知れぬ。其結果  
鐵道省の收支に大影響を及ぼすかも分らぬが、是れは時勢の推移として寧ろ歡迎するの外なく、一方  
航空の事業と共に總括して交通省の管轄に屬せしめて相當なる政策を採るべきであると思ふ。

次に考ふべきは自動車の専用道路である。之れは先づ最も必要なる近道ショートカットに専用道路を造れば、交通  
上の利便多きこと固より言を俟たぬ次第である。

又最近小軌道會社の或ものが改良道路に由る自動車交通の發達が自己營業の利益を奪ふことを  
恐るゝの状態にあるけれども、之れも決して社會の推移に逆行することなく、軌道を取り外して改良  
道路、即ち専用道路を造つて交通上利益多き業に移るべきである。

右は倉卒の間に一寸記した次第であるが、又其内機を見て秩序を立て、御話して見たいと思ひま  
す。